

VI 令和元年度 全国大会報告

第94回令和元年度全日本盲学校教育研究大会・京都大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「視覚障害教育の専門性を、共生社会の発展とともに
～未来を切り開く幼児児童生徒のもとへ～」
- (2) 期 日 令和元年7月25日(木)～26日(金)
- (3) 場 所 京都テルサ(京都府民総合交流プラザ)

2 内容

- (1) 普連協(全国盲学校普通教育連絡協議会)
- (2) 理教研(全国理療教育研究協議大会)
- (3) 全体会(講演)
- 演題 「不便さ」を力に一障害のある人にも使いやすいモノづくりに携わってー
 - 講師 (株)タカラトミー社会活動推進課 高橋 玲子氏
- (4) 分科会研究テーマ
- ① 第1分科会(学習指導1)
 - ・ 視覚障害教育の特性に応じた学習の基礎・基本を身に付けるための指導
 - ・ コミュニケーション能力や表現力、発信力を育てる指導
 - ② 第2分科会(学習指導2)
 - ・ 視覚障害教育の特性に応じた学習の基礎・基本を身に付けるための指導
 - ・ 意欲を引き出す指導や気づきに繋がる指導、教材・教具の工夫
 - ③ 第3分科会(生活)
 - ・ 自立と社会参加を目指した基礎的な生活力をつける指導
 - ・ 多様化した幼児児童生徒の社会参加に向けた支援のあり方
 - ④ 第4分科会(特別支援)
 - ・ 視覚特別支援学校(盲学校)における専門性の維持・向上
 - ・ 視覚障害教育におけるセンター的役割とネットワーク及び課題
 - ⑤ 第5分科会(理療)
 - ・ 認定規制改正に伴う追加カリキュラムの指導上の課題と工夫
 - ・ 生徒の実態に応じたあん摩基礎実習の指導～強揉み指導、母子揉捏の指導、姿勢の指導触察の指導など～
 - ・ 多様な生徒の自立的な学習を進めるための指導方法～高齢生徒や学習意欲の低い生徒など学習に困難を抱える生徒への指導～

3 報告

全体会での高橋氏の講演は、視覚障がいのある幼児児童生徒にも、視覚障がい教育に携わる全ての人にとってとても希望溢れる話だった。特に、障がいがあるということは、社会を変えるエネルギーを持っているのと同じだと強調した上で、「視覚障がいがあるということは、これから自分と同じようないろいろな人たちと社会をもっとよくしていける力と可能性をもっている」という視覚障がいのある幼児児童生徒へ向けた言葉は、とても心強く感じた。第2分科会では、3Dプリンターで作成した教材活用や全盲の生徒がクロールを習得するための工夫等、事例を伴った研究発表が6題あった。各校での創意工夫された実践を聞き、本校で復命することによって、視覚障がい教育の専門性が広がることを感じた。

第53回全日本聾教育研究大会（高岡大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 未来の創り手となる聴覚障害児の「生きる力」を育む教育を考える
～心と言葉を育み 子どもたちが自ら人生を切り拓くために～
- (2) 期 日 令和元年10月17日（木）から18日（金）まで
- (3) 場 所 富山県立高岡聴覚総合支援学校 富山県立富山聴覚総合支援学校
ホテルニューオオタニ高岡 ソラエ高岡 ウイング・ウイング高岡

2 内 容

- (1) 全体会
① 開会式 ② 記念講演 ③ 閉会式
- (2) 授業研究分科会

分科会		研究テーマ
1	幼稚部	達成感や満足感が得られる活動の充実とその思いを表出する力を育てるための支援の在り方
2	小学部	分かり喜びを感じ、主体的に学ぶための支援の在り方
3	中学部	主体的に社会参加し、生きる力につながる心と態度を育てるための支援の在り方
4	高等部	社会の一員として主体的に生きる力を高めるための支援の在り方

(3) 研究協議分科会

1	早期教育Ⅰ（乳幼児）	乳幼児の健やかな発達と親子の望ましい関係づくり
2	早期教育Ⅱ（幼稚部）	心と言葉を育むための環境づくりと豊かなコミュニケーション・言語発達
3	言語・教科指導Ⅰ（小学部）	基礎的な・基本的な学力とそれを支える言語能力の育成
4	言語・教科指導Ⅱ（中学部・高等部）	学力の伸長と思考力・判断力・表現力を支える言語能力の向上
5	寄宿舎教育	多様なニーズに対応する寄宿舎教育の在り方
6	自立活動Ⅰ（障害認識・コミュニケーション・キャリア形成）	自立と社会参加に向けた段階的、系統的な指導の在り方
7	自立活動Ⅱ（聴覚活用・補聴機器）	補聴機器や補聴援助システム等を利用したよりよい聴覚学習の在り方
8	センター的機能	聴覚障害児教育について特別支援学校が期待されるセンターとしての役割
9	重複障がい教育	一人一人の障がいに状態や発達段階、教育的ニーズに応じた指導や支援の在り方

3 報 告

研究協議分科会の寄宿舎教育では大阪教育大学教授の井坂行男氏による講演をはじめ、全国から集った14校の寄宿舎指導員が各寄宿舎で行われている取組をそれぞれ発表した。それぞれ抱えている課題やPDCAサイクルの大切さを学ぶことができ、大変意義のある大会だった。

第58回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「埼玉大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」
～一人一人の教育的ニーズに応じる教育の充実を求めて～
- (2) 期 日 令和1年10月17日(木)～18日(金)
- (3) 場所(会場) 第1日目(全体会) 大宮ソニックシティホール大ホール
第2日目(学校見学および分科会) さいたま市内の小学校・中学校・特別支援学校、大宮ソニックシティビル会議室

2 内 容

- (1) 第1日目
- ① 開会式(開式の言葉、あいさつ、祝辞、登壇者紹介、閉式の言葉)
 - ② 表彰式(功労賞受賞者紹介・三木安正記念研究奨励賞)
 - ③ 研究報告
 - ア 全特連三木安正記念研究奨励賞受賞研究報告
「自分たちで会社を作って『仕事』をしよう」～学校の役に立つ仕事をパーフェクトにしよう～
 - イ 開催地研究報告
「共に学ぶ、共に生きる」～合唱ミュージカルライオンキングの取組～
 - ④ 行政説明(特別支援教育行政の現状と課題)
 - ⑤ 基調報告「志をもち、未来社会を自立的に生きる子供たち」
 - ⑥ 全特連結成70周年記念シンポジウム
「特別支援教育の未来を展望する」～新学習指導要領と特別支援教育の実践研究を通して～
 - ⑦ 閉会式(実行委員会あいさつ、次期全国大会開催地あいさつ)
- (2) 第2日目
- ①学校見学 ②移動、昼食休憩 ③分科会(概ねの流れ:提案Ⅰ、提案Ⅱ、協議、助言)

番号	分科会名	番号	分科会名
1	学校経営	10	高等学校における特別支援教育
2	特別支援コーディネーターの役割とセンター的機能	11	通級における指導
3	幼児期の特別支援教育と幼保小の連携	12	難聴・言語障害のある児童生徒への指導
4	各教科等を合わせた指導(日生、生単)	13	自閉症の児童生徒への指導
5	各教科等を合わせた指導(作業学習)	14	重度・重複障害のある児童生徒の指導・支援
6	教科別の指導(小学校段階)	15	キャリア教育
7	教科別の指導(中学校段階)	16	交流及び共同学習
8	自立活動	17	健康・安全教育
9	通常の学級における児童生徒の支援と授業改善	18	障害者スポーツ

3 報 告

大会テーマのもと開催された全特連埼玉大会は全国各地から参加者が一堂に会し、18にわたる分科会をはじめ、行政説明や基調報告、記念講演、また全国各地の取組状況の報告や最新情勢の説明等が行われ、大変有意義な大会となりました。特に研究報告における埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園と近隣の高等学校が行った合唱ミュージカル「ライオンキング」の舞台発表は圧巻な内容で、参加者の胸中に深くしみ込み、会場全体が大感動に包まれるとともに、共生社会の縮図とも言うべき世界でした。更に、各県が進めているインクルーシブ教育システムの方向性や専門性の向上等の現状や課題、一人一人の夢を育て学校経営の現状や自立活動の取組状況等をお聞きすることができ、大変充実した分科会でした。改めて先人の御功績に思いをはせるとともに、子どもたちの幸せのために邁進していく情熱と責任感、使命感を深く実感した2日間でありました。

第60回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会宮城大会

1 大会概要

- (1) 主 題 児童生徒個々のニーズに応じた、生きる力を育む病弱教育のあり方
～多様化する病弱教育における指導や支援の充実～
- (2) 期 日 令和元年8月1日(木)～2日(金)
- (3) 会 場 仙台国際センター

2 内 容

(1) 分科会 I

① 教科・領域の指導

発表1 「人と関わる力を育てるための指導」

発表2 「病弱支援学校における体育指導の実践」

② 自立活動の指導、総合的な学習の時間の指導

発表1 「キャリア教育のあり方、仕組み作りについて」

発表2 「夢を語り合う授業実践—PATH(希望に満ちた
もう一つの未来の計画)を活用して」

③ 進路指導・キャリア教育、高校生支援

発表1 「キャリア教育の視点を踏まえた総合的な進路
支援のあり方について」

発表2 「同時双方向型配信授業の可能性～出席認定に
つながった高校生支援の成果と課題」

④ センターの役割、地域・医療・労働・家庭との連携

発表1 「病弱特別支援学校・学級における実践上の困難とその解決に向けた試み
～双方向通信を用いた特別支援学級との共同実践～」

発表2 「地域支援と病弱特別支援学校としての県域における支援」

⑤ PTA

発表1 「PTA 研修会の充実に向けて」

発表2 「病・肢併置校『光明学園 PTA』3年目の夏」

発表3 「参加して、学び、楽しみ、元気が出る PTA 活動をめざして」

発表4 「本校の PTA 活動について」

発表5 「本校の PTA 活動について」

発表6 「PTA 活動について」

(2) 分科会 II

⑥ 心身症・精神疾患のある子供の指導

⑦ 重度重複・脳性まひ

⑧ 筋ジス、慢性疾患

⑨ ICT

(3) 60回記念講演

演 題: 「特別支援教育の現状と課題」

講 師: 佐々木 邦彦 氏

(文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育企画官)

(4) 講 演



演 題：「学ぶことは生きること」

講 師：副島 賢和 氏（昭和大学大学院保健医療学研究科准教授）

(5) 特別講演

演 題：「今後の病弱教育に期待すること」

講 師：深草 瑞世 氏

（文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官）

(6) 特別企画

映画上映 ドキュメンタリー映画「続・車いすの青春」（ありのまま舎）

3 報 告

(1) 本校の発表（分科会 I ⑤PTA）

本校からは、PTA 会長の渡久山武志氏による実践発表があった。本校の PTA 活動として、広報部・研修部・文化部のそれぞれの担当事業について昨年度の実績を基本として報告がなされた。編集会議を重ねて企画を練る広報誌、講師と昼食をともにしながら語る機会を設ける家庭教育学級、子供も保護者も楽しく参加できる行事となるよう努力している松風祭（文化祭）など、少ない人数でも役員が中心となって様々な工夫をしていることが説明された。

助言者からは、「児童生徒が減少し、保護者役員の方々の負担が増える中でも、先生方とともに様々な工夫をして頑張っていると思う」「掲示板や役員会の記録などで多くの保護者と情報を共有しようという姿勢は大切である」との感想をいただいた。

また他校の実践として、防災への関心が高いことから「校内防災ツアー」として、備蓄品を置いてある場所や避難経路を保護者に見てもらおう企画や、ビニール袋を使って調理する非常時の料理講習会を行っていることなどの報告があった。

(2) 大会全体を通して

①分科会Ⅱ 心身症・精神疾患のある子供の指導

今年度の夏期研修で講師招聘した、埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校からは集団の中で自立活動を進める取り組みが報告された。遊具のガチャガチャ玉や風船キャッチなど、子供たちの興味を引きそうな道具やゲームを活用して、学習への参加を促す工夫などが紹介された。

②講演「学ぶことは生きること」



講師の副島賢和氏は、「赤鼻のセンセイ」としてドラマのモデルで知られている。25 年間の公立小学校勤務や、大学病院内の院内学級担任の経験から、病弱の児童生徒の立場に立って話をされた。その中でも、周囲の保護者や先生たちに必要ないくつかのポイントとして、

- ・子供の行動の背景には、何かの理由がある。言葉にならないものも含め、表情などいろんな情報を集めて子供の声を聞いてほしい。

- ・命の限られた子供と過ごす上では、楽しい時間を持つこと、日常を大事にすること、生きている証を残してあげてくれることを心にかけている。

などがあげられた。



第65回全国肢体不自由教育研究協議会 青森大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「肢体不自由教育の充実をとおした共生社会形成の推進」
～カリキュラム・マネジメントによる質の高い教育実践をめざして～
- (2) 期 日 令和元年11月13日(水)・14日(木)・15日(金)
- (3) 場所(会場) 八戸グランドホテル 八戸商工会館 八戸ポータルミュージアムはっち
青森県立八戸第一養護学校

2 内 容

(1) 全体会

- ① 講話 演題：「学習指導要領改訂と肢体不自由学校への期待」
講師：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官
菅野和彦氏
- ② 記念講演 演題：「肢体不自由教育の現状と未来」
講師：筑波大学教授 下山直人氏(筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校長)

(2) 分科会及びポスター発表

分科会	観 点
授業改善	学校が開発した授業研究の手法や成果の共有をとおして、各学校の授業改善に資する。
学習指導Ⅰ (準ずる教育課程)	個別の指導計画や授業計画、授業の工夫の実践紹介をとおして、準ずる教育課程(訪問教育を含む)の教科について、学習指導の充実を図る。
学習指導Ⅱ (知的代替の教育課程)	個別の指導計画や授業計画、授業の工夫の実践紹介をとおして、知的代替の教育課程(訪問教育を含む)の領域・教科等について、学習指導の充実を図る。
学習指導Ⅲ(自立活動を 主とする教育課程)	個別の指導計画や授業計画、授業の工夫の実践紹介をとおして、自立活動を主とする教育課程(訪問教育を含む)の学習指導の充実を図る。
自立活動	自立活動の時間の指導・教育活動全体を通じて行う指導について、教育課程・指導計画及び外部専門家との連携も含めて、専門性の向上を図る。
健康教育	医療的ケア及び食育も含めて、健康教育推進にかかわる指導等の専門性の向上を図る。
情報教育・支援機器の活 用	効果的な情報教育の授業実践、自立と社会参加につなげる支援機器活用の実践をとおして、各学校の授業改善に資する。
生活指導・寄宿舎教育	肢体不自由校全般の生活指導の視点をもとに、寄宿舎教育の指導実践も含め、学習指導以外の指導面を補完し、生活指導の充実を図る。
キャリア教育及び進路指 導	キャリア教育及びキャリア形成を踏まえた進路指導の視点を共有し、指導の充実を図る。
地域との連携	地域という視点から、支援機能の発揮や小・中学校等と進める交流及び共同学習の工夫、個別の教育支援計画の活用について理解を深め、学校の機能向上を図る。

※ ポスター発表については、上記10分科会の観点に沿った66の取組が発表された。

- (3) 公開授業、教材展示等(青森県立八戸第一養護学校)、閉会行事

3 報 告

全体会では、文部科学省の菅野和彦調査官より「学習指導要領の改訂と肢体不自由学校への期待」と題して講話があった。来年度に小学部の学習指導要領が完全実施されるのに伴い、学習指導要領改訂のポイントの確認とカリキュラム・マネジメントの視点に立った具体的で根拠のある取組の必要性、学習評価について説明があった。また、記念講演では筑波大学教授（附属桐ヶ丘特別支援学校長）の下山直人氏が「肢体不自由教育の現状と未来」と題して、これまでの肢体不自由教育にかかわってきた経験を踏まえ、現在の状況から今後の方向性まで多くの示唆をいただいた講演だった。分科会では、実践発表とワークショップ形式の協議を行い、有意義な情報交換の場となった。ポスター発表では、66の取組に対し熱心な討議が行われた。また、公開授業や教材展示等も行われ、大変有意義な大会であった。